

DOWAS NEWS

2020

Vol.23 No.1



海洋深層水利用学会 2020 年度全国大会開催に関するお知らせ
研究発表企画委員会 委員長 清水 勝公 …1

「第 23 回海洋深層水利用学会全国大会 海洋深層水 2019 鹿児島大会」報告
研究企画発表委員会 委員長 清水 勝公 …2

2019 年台湾深層海水国際シンポジウムおよび台湾深層海水資源利用学会大会の報告
株式会社ジーオー・ファーム 代表取締役社長 鷲足恭子 …3



海洋深層水利用学会

海洋深層水利用学会
2020 年度全国大会開催に関するお知らせ

研究発表企画委員会 委員長 清水 勝公

新型コロナウイルス感染症に最大限の注意を払い活動せねばならない昨今、会員各位におかれましては
はお元気でお過ごしのことと存じます。

当会の年度活動におきましても、その影響を大きく受け、総会実施に向けましての理事会も TV 会議で
の実施となりました。

さて、例年ですと全国大会開催に向けましての会告案内が皆様方に届く時期ですが、今年度は新型コ
ロナウイルスの影響により、新潟県佐渡市での開催を次年度開催に延期し、今年度は「Web 会議」での
開催とすることに加えまして、Web 会議で発表されます研究発表内容は学会誌に掲載することが、先の
理事会で決まりましたので、お知らせします。

なお、Web 会議で行われる全国大会の開催要領等に関しましては 7 月 2 日に予定されています理事会
で新役員が選出され、その後に行われます総会で新体制が決まり、それに伴い発足する新研究発表企画
委員会におきまして決められることとなります。従いまして、皆様方におきましては、全国大会の研究
発表の応募要領に関しまして、今しばらくお待ちいただきたくご案内します。

「第 23 回海洋深層水利用学会全国大会 海洋深層水 2019 鹿児島大会」報告

研究発表企画委員会 委員長 清水 勝公

「海洋深層水 2019 鹿児島大会」が 2019 年 10 月 10 日（木）、鹿児島大学稲盛会館キミ&ケサメモリアルホールにおいて開催されました。なお、大会は例年と同様に 3 日間で行われる予定でしたが、見学場所が深層水関連施設のある下甕島となったことから研究発表会を 1 日、見学会を 2 日間で行う予定でした。しかし、台風 19 号の来襲により見学会が取り止めとなり、研究発表会の 1 日となったものです。大会の概要は以下の通りです。

〈第 23 回海洋深層水利用学会全国大会概要〉

主催：海洋深層水利用学会

共催：鹿児島海洋深層水協議会

鹿児島大学産学・地域共創センター

後援：文部科学省・水産庁・鹿児島県・薩摩川内市

協賛：甕島商船(株)、(株)シェルフィッシュ甕、(株)センターフーズ、環境システム(株)、環境バイオエンジニアリング(株)、ビーエルテック(株)、(株)ニチモウマリカルチャー、南国殖産(株)、こしき海洋深層水(株)

開催日時：2019 年 10 月 10 日(木)

開催場所：鹿児島大学稲盛会館キミ&ケサメモリアルホール

開催内容：

- ・ 研究発表：15 題
海洋・水質／生物・水産／農業・畜産関連／健康・医療関連：9 題
(座長：前田広人 鹿児島大学産学・地域共創センター長)
- 利活用システム関連／施設関連他：6 題
(座長：野村 道康 (株)ディーエイチシー海洋深層水研究所主任)
- ・ ポスター発表：3 題 (国内：1 題、韓国：2 題)
- ・ 特別講演：1 題

本大会の参加者に関しましては台風襲来と言う特殊な状況下に係らずキャンセルもなく全参加予定者の出席を得ました。その参加状況は会員 57 名、非会員 38 名、学生 5 名、スタッフを含めると 120 名を超える参集を得て実施されました。なお、海外からの参加者は韓国：4 名、台湾：11 名の参加を頂きました。

開催の反省としまして、研究発表数に関しましては発表日数が 1 日であったことから 15 題となりました。次年度以降は例年の 25 題以上の発表をキープして行きたいと考えます。

特別講演は 1 題、井上興治様 (NPO 海ロマン 21 理事)より「奄美の離島における海洋温度差発電構想」と題して海洋深層水の省エネ利用への有効性に関して基調口演頂きましたが、今後も、開催地の特色や深層水関連情報等の共有化を図るための特集を組み、数題の発表をキープして行きたいと考えます。また、ポスター発表については台湾及び韓国の各学会の協力を得て、海外からの発表・交流の拡大を検討して行きたいと考えます。

加えて本大会において、研究発表の申し込みを行ったが、大会事務局側の受付上の見落としにより、結果として発表が出来なかったと言う不手際が発生しました。本件に関しては不具合が発生した背景に対する反省から次年度の会告案内に以下の注意事項を掲載することで再発の防止を図りたいと考えています。

- ・ 申込みの用紙は「1 人 1 枚」とし、複数人員を 1 枚で申請することを禁止する。

- ・ 申込み書の記載要領として、研究発表の意向が目立つよう、研究発表タイトルには未定状態でも「仮称タイトル」を記入の上申込み頂く。
- ・ 研究発表申込みの受付に際し、大会事務局からの返信メール “大会参加と研究発表を受けました” と返信していますが、返信メールに「研究発表を受けました」の記載がない場合は、申込者に再確認のメールをお願いします。

本件に関してご意見等がありましたら、研究発表企画委員会までメール頂きたいと思ひますし、ご迷惑をおかけしました会員には本紙を通じましてお詫び申し上げる次第です。

大会開催に当りましては開催を受入れていただきました鹿児島大学及び鹿児島海洋深層水協議会の皆様には多大なご協力を得て準備・運営することができましたことを、本紙面を通じましてお礼を申し上げます。また、(株)薩摩川内市観光物産協会下甕島支店の皆様方にも多大なご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

最後に、会員の皆様方には、日頃、本学会活動にご理解とご協力を賜りまして、当大会の開催責任者として感謝申し上げます。

次年度開催地に関しましては現在調整中ですが「佐渡」を検討しています。スケジュール調整の上、多数の御参集を頂きますようお願い申し上げます。

以上

2019 年台湾深層海水国際シンポジウムおよび台湾深層海水資源利用学会大会の報告

株式会社ジーオー・ファーム 代表取締役社長 鷲足恭子

この度、当学会の会員でいらっしゃる、台湾海洋深層水学会を牽引される財団法人石材・資源産業研究発展センター（現探索水産社）の黄秉益様のご依頼を賜り、2019年11月29日に台湾の基隆で開催された台湾シンポジウムに参加させて頂きました。日本からは、海洋深層水利用学会の高橋正征会長、東京海洋大学の今田千秋教授もご参加されました。

現地入り致しました日はシンポジウム前夜にあたり、台湾深層海水資源利用学会許泰文理事長主催による盛大な晩餐会を開催して頂き、前任の台湾海洋大学学長の李国添様もご参加され、総勢14名で活発な意見交換がおこなわれ、また、和やかな懇談の時間を過ごさせて頂きました。

シンポジウム当日は前日からの悪天候も回復し、三方にかこまれた山々と天然の良港に恵まれた基隆の景色を眺めながら会場入り致しました。シンポジウム前半の基調講演Ⅰでは今田千秋教授が「海洋深層水の微生物資源の探索と産業利用の成果」というテーマにて、これまで海洋深層水から単離、培養された海洋由来微生物の研究成果やその後の産業利用について、ご講演されました。

その後の基調講演Ⅱにて、私が「水産分野での深層水利用の展開」をテーマに、海洋深層水を活用したカキの陸上養殖事業開始に至る背景、現在の海域汚染や温暖化に伴う海水温の上昇が及ぼす水産資源への影響、その点を踏まえた今後の水産業への海洋深層水利用の重要性や我々が担う日本のアクアカルチャーの発展について、お話しをさせて頂きました。

更に基調講演Ⅲでは食品工業発展研究所の陳麗婷様が「台湾の深層水産業の現状と将来の発展に向けて」と題して、台湾における海洋深層水の民間利用や今後の行政取り組みの必要性を、発表されました。その後もパネルディスカッション、午後からは台湾海洋深層水学会の総会及び論文発表と、今後台湾における海洋深層水の更なる利活用、行政、民間企業が一体となった取り組みによる関連産業の発展を感じさせて頂きました。

今回のシンポジウムにより、台湾海洋深層水学会における若手研究者の情熱あふれる取り組みやこれまでの民間主体型から、行政との連携による海洋深層水関連産業の更なる成長を確信させて頂いた次第です。今後、アジアにおける海洋深層水関連産業の主幹として日本、台湾が牽引すべく、また情報産業への適応を踏まえた次世代への貴重な資源と産業創出の継承をする使命を、改めて心させて頂きました。

末筆となりましたが、今回このような貴重な経験をさせて頂きました台湾海洋深層水学会の皆さまはじめ、心温まるおもてなしを頂戴致しました関係各位に心より御礼申し上げます。